

令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森第四中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・可能な限り実験や観察を行うことができた。
- ・学習効果測定の結果から多くの部分で目標値や区内平均、全国平均に比べ高いポイントが得られた。
- ・内容別正答率が非常に高い分野がある。主体的かつ意欲的に学習に取り組んできた成果と思われる。

(2) 課題

- ・実験を考察する場面をさらに多く取り入れる必要がある。
- ・さらなる知識の定着を、小テストなどを用いながら図る必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	目標値とほぼ同じ程度である。基礎よりも応用の分野の問題正答率が良い傾向がある。	/	/
第2学年	目標値とほぼ同じ程度であるが、応用問題と比較して、基礎の分野の問題ではやや点数が低い傾向がある。昨年度と同じ程度である。	目標値とほぼ同じ程度である。活用問題では上回っているが、基礎問題ではやや下回っている。昨年度と同じ傾向である。(第1学年時)	/
第3学年	目標値とほぼ同じ程度である。昨年度と同じ程度である。	校内平均正答率が、目標値をやや上回っている。昨年度と同じ傾向である。(第2学年時)	全国平均に比べて、校内平均正答率がわずかに上まわっている。(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が目標値をやや上回っている。	校内平均正答率が目標値をやや上回っている。	校内平均正答率が目標値をやや上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が目標値やや下回っている。	校内平均正答率が目標値と同じ程度である。	校内平均正答率が目標値と同じ程度である。

--	--	--

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が目標値と同じ程度である。	校内平均正答率が目標値と同じ程度である。	校内平均正答率が目標値と同じ程度である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
くり返し問題演習などを行うことにより定着を図る。技能は引き続き実験を中心に指導をする。活用問題には、時間をかけて考えたり、考察をきちんと書けるように指導する。 「物質」「エネルギー」に関する知識問題に、時間をかけていく。	実験を行う前に実験方法を検討・提案する授業を取り入れていきたい。 検討や提案の方法については指導に時間をかけていく。	学年全体が理科への関心が高く、特に実験へ意欲的に感じる。そのため、与えられた実験をこなす授業から、生徒が考えた方法を少しでも多く取り入れる授業を展開することで、生徒の主体性を養いたい。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
くり返し問題演習などを行うことにより定着を図る。技能は引き続き実験を中心に指導をする。 「エネルギー」「生命」に関する分野の知識問題に時間をかけていく。	実験を行う前に実験方法を検討・提案する授業を取り入れていきたい。 検討や提案の方法については指導に時間をかけていく。	学年全体が理科への関心が高く、特に実験へ意欲的に感じる。そのため、与えられた実験をこなす授業から、生徒が考えた方法を少しでも多く取り入れる授業を展開することで、生徒の主体性を養いたい。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「地球」に関する問題では高い正答率が見られたが、「エネルギー」に関する問題ではやや正答率が低い。くり返し問題演習などを行うことにより定着を図る。技能は引き続き実験を中心に指導をする。	実験を行う前に実験方法を検討・提案する授業を取り入れていきたい。 化学変化と「物質の質量」では、時間をかけて分析出来るように指導する。	学年全体が理科への関心が高く、特に実験へ意欲的に感じる。そのため、与えられた実験をこなす授業から、生徒が考えた方法を少しでも多く取り入れる授業を展開することで、生徒の主体性を養いたい。